オーストラリアにおけるエコツーリズム認証制度 (NEAP) の仕組みと特徴について

System and Characteristics of National Ecotourism Accreditation Program in Australia

小菅 貴史* 古谷 勝則* 親泊 素子**

Takashi KOSUGE Katsunori FURUYA Motoko OYADOMARI

Abstract: NEAP (National Ecotourism Accreditation Program) in Australia started in 1996. This is the first ecotourism accreditation program in the world. In this study, the system and characteristics of NEAP have been clarified. The study was conducted mainly through worldwide literature research and perusal of the official website. In addition, field survey and interviews were conducted for 10 days from March 3rd to 12th in 2010. Development of NEAP was initiated by Ecotourism Association of Australia together with related industries and the government. NEAP is a program which accredits accommodation facilities, tours, and attractions in nature areas, based on a standard established by NEAP itself. Four hundred and twenty-three quality ecotourism products have been accredited as of January 2010. The increasing number of accredited ecotourism products has been contributing to raise consciousness among the tourism related industries. As a result of study on benefits of NEAP, the system where environment conservation translates to economical profitability has been revealed. The relationship with economy is important for ecotourism, which strives for sustainable developments. On the other hand, it was revealed that there were cases where understanding about NEAP was lacking, based on field study results and interviews with tourists. Also, some facilities had problems with facility maintenance related to environmental consciousness.

key word : Australia, Ecotourism, NEAP, EcoCertification Program, Environmental Preservation, Sustainable

キーワード : オーストラリア, エコツーリズム, NEAP, エコ認証制度, 環境保全, 持続可能

1. はじめに

エコツーリズムは、自然環境や文化歴史的資産を保全しつつ、観光事業を軸にして地域産業を活性化し、地域の厚生水準を高めていく極めて現実的要請に即した施策である(海津,2008)¹⁾。エコツーリズムの運用については、発展途上国で行われ先進国でも利用されるようになってきている。日本においても環境省が中心となりエコツーリズムを浸透させるための体制づくりを進めている。しかし、エコツーリズムは、環境に配慮した持続的な観光とされながらもその効果や実態があまり知られていない。概念や定義はあるが、さまざまな解釈・表現がありまとまりがなく、エコツーリズム企画商品においても差があり、旅行者の期待が裏切られる実態もある。そのため、エコツーリズムの正しい理解を促し、認知度を高めていくことが必要である(下村,2004)²⁾。エコツーリズムであっても、環境に配慮した持続的な観光を目指していない商品がある。このような実態に対して、商品企画から宣伝、募集展開の流れでのエコツーリズムの役割を考える必要がある。

エコツーリズム先進国と言われるオーストラリアでは、エコツーリズム商品に対して認証を行うユニークな制度=エコツーリズム認証制度(National Ecotourism Accreditation Program, 本論文ではNEAP認証制度と記載)を設け、適切な運用・監視・管理を進めている。この制度は、商品に対してある規格基準を設け、観光業者が取得し、商品設計に表現することで、旅行者が安心して質の高い商品を選択できる環境を作り出している。現在、絶滅種の動植物が増え、今後地球の豊かな自然環境、野生生物等の保護が必要な時であり、自然環境と人との共存は極めて重要と考える。

NEAP認証制度に関する既存研究として、Ralf C. Buckley (2001)³⁾が制度の概要を、Guy Chester and Alice Crabtree (2002)⁴⁾は制度改訂の変遷について述べ、J. Plssaverdis (2001)⁵⁾は制度の内容からビジネスや環境について要点を述べ、John Jenkins and Stephen Wearing (2003)⁶⁾は制度によってエコツーリズム産業発展と環境保護に大きく貢献していると述べている。最近では、Rik Thwaites (2007)⁷⁾が制度内容、運営組織につい

て述べている。日本では、小林寛子(2002)⁸⁾がNEAP認証制度と世界の環境認証について事例を述べ、またスー・ビートン(2002)⁹⁾は、豊富な事例、研究結果を通してオーストラリアエコツーリズム関わる問題点を分かりやすく述べ、小林英俊(2006)¹⁰⁾はエコツーリズムの事例分析から、NEAP認証制度を取り上げ管理・運営手法について述べている。しかし、これまでの研究内容は、NEAP認証制度の概要や運営を個別の事例から述べているものが多い。NEAP認証制度の仕組みと特徴を、成立の過程や認証を受ける商品、認証の実態から考察したものは少ない。

本研究は、世界で最初のエコツーリズム認証制度ともいわれているオーストラリアのNEAP認証制度の仕組みと特徴を明らかにすることを目的とした。認証制度の仕組みと特徴は、制度の成立過程と商品の認証実態から考察した。NEAP認証制度はNEAP III (2003)の改正時点でEcoCertification Programに名称変更されたが、本論文ではNEAP認証制度と呼ぶことにした。

2. 研究の方法

(1) オーストラリアの概要

正式名称は、オーストラリア連邦¹¹⁾で6つの州¹²⁾と2つの特別地域¹³⁾から構成される連邦国家である。南半球に位置し、人口約2,137万人(2008)で日本の約6分の1、国土面積769万2,024平方キロメートルで世界第6位の面積で日本の面積の約20倍の広さを保有する¹⁴⁾。GDPは9,248億ドル(2008年18位)、1人当たり48,951ドル(2008年14位)¹⁵⁾と世界的に見ると豊かな国といえる。日本のGDPと比較すると約5分の1倍だが、1人当たりのGDP比率では約0.9倍になり1人当たりに換算すると日本とほとんど変わらない。またオーストラリアは、約6万年以上も前から人類が生活していたといわれ歴史が深く、大陸には雄大な自然が存在し、オーストラリアでしか見ることのできないコアラ、カンガルーなどがいることで多くの海外観光客が訪れている。

*千葉大学大学院園芸学研究科 **江戸川大学社会学部

(2) 研究方法

本研究では、オーストラリアにおける NEAP 認証制度の仕組みと特徴を明らかにするために、国内外の文献調査や公式 Web ページの閲覧を中心に進めた。文献調査では、オーストラリアのエコツーリズムに関する既往文献に加え、NEAP 認証マニュアル第2版、第3版を収集し参考にした。さらに、2010年3月3日～12日までの10日間の現地調査とインタビュー調査を行った。現地調査では、本研究の対象となる商品（ツアー¹⁶⁾、宿泊施設¹⁷⁾、アトラクション¹⁸⁾）を3ヶ所選定し、情報収集を行った。現地調査は、クイーンズランド州のゴールドコーストとブリスベンの地域を訪れた。また対象となる商品を管理するスタッフやツアーガイド、旅行者、レンジャーからインタビューを行った。

3. 結果と考察

NEAP 認証制度の仕組みと特徴について検討するために、制度の目的、取り組み、歴史変遷について、認証商品の現地調査、インタビュー調査、関連文献資料より述べた。

(1) NEAP¹⁹⁾ 認証制度

エコツーリズムと言う言葉が普及するにつれて 1991 年に非営利団体としてオーストラリアエコツーリズム協会（本論文では EAA²⁰⁾ と記載）が設立された²¹⁾。しかし、国内でエコツーリズム、エコツアー、エコロッジという言葉が広がり、よく似ていて見分けがつかないものが多数出てきたことでエコツーリズムの質の低下が危惧された。そこで優良商品の差別化を図るとともに、業界全体のレベルの向上を図るために EAA とオーストラリアツアーオペレーターネットワーク（ATON/VTOA）²²⁾ が共同で開発し、連邦政府からの資金援助を得て 1996 年世界で初めて、優れたエコツーリズム商品を認証する制度（NEAP）を設け、認証を開始した。これらは基本的に自然地域での取り組みにおける商品（宿泊施設、ツアー、アトラクション）を組織が定める基準項目において比較評価、認証を行う自然環境の保護を目的とした取り組み制度である。

この制度の管理・運営は、連邦政府からの資金援助と認証費用ならびに認証業者の年会費によって EAA が行っている。認証によって自然保護地域での良質な管理・対策によって利用者に真の商品を認証するものとし、1996 年当初、認証商品は 200 個以上評価され²³⁾、現在では 423 個（2010 年 1 月時点）の評価を受け、評価基準の改良は、常に見直され更新されている。

NEAP の目指している目的は、「エコツーリズムと他の観光産業と係わることで社会的、文化的な責任を負い、経済的にも実行可能で、継続的な環境保護のリーダーになるように手助けする²⁴⁾」ことである。具体的に任務としては、次の 7 点がある²⁴⁾。①持続可能な観光の基準を開発し、採用する。②観光産業の中で働いている人のプロフェッショナルを増やす。③保護地域ですでに完成され作用している政策や方法を合理化する。④その場所についてオペレーターのインタープリテーションの質の改良を手助けする。⑤持続的に可能な実行のためオペレーターの財政的な実現性とポジショニング改善をする。⑥保護対策と計画に貢献し、地元地域の利益に係わり、提供する。⑦持続的に可能な基準の認識が増加するようマーケティングすることである。

(2) オーストラリアエコツーリズム協会（EAA）の取り組み

オーストラリアのエコツーリズムを促進していくことを目的に 1991 年に設立された EAA は、オーストラリア連邦政府やクイーンズランド州政府の支援で設立された非営利団体である。エコツーリズムを利用・浸透させることで貴重な自然や文化を保護し、地域社会への利益をもたらす持続的な発展を望むものである。設立当時の会員数は 60 件程度であったが、2003 年にはその数を約 500 件までに増やしている²⁴⁾。会員は、エコツーリズム経営者、旅行者、民間団体、政府各機関ならび教育機関やエコツーリズムに

関心を寄せる団体である。彼らがエコツーリズムに関する調査研究を実施し、インターネットを通じてエコツーリズムのマーケティングの促進や NEAP 認証商品の広報及び取得拡大を呼びかけ、地方支部の設立などにも力を入れた活動を行っている²⁴⁾。観光業に関わるツアーオペレーターに対して、EAA の認証制度は他に NEAP 認証（エコツーリズム商品）、エコガイド認証（ツアーガイド）、文化保護認証、気候影響評価認証（ビジネス）などがある。本研究で対象とした、NEAP 認証（エコツーリズム商品）は、世界初の自然地域のエコツーリズム商品に関して認証を行う制度である。商品を認証することで持続可能な管理、地元への貢献に繋がる効果がある。エコガイド認証（ツアーガイド）は、2000 年に開始されたオーストラリアのトップガイドに与えられる認証である。エコガイド認証によって公認されたガイドは、安全で、文化的に敏感で環境面で持続可能な方法を知り、専門的で上質エコツーリズム体験を提供している。文化保護認証は、2003 年に開始され、先住民の文化遺産や生活文化を尊重し、保護に繋がるように認証されている。認証がある商品は、先住民の工芸品として本物であることが保証される。気候影響評価認証（ビジネス）は、2009 年に開始されエネルギー消費量、二酸化炭素排出量を減らす努力を格付けて認証するものである。

(3) オーストラリアエコツーリズム協会（EAA）の成立と発展

1) オーストラリアエコツーリズム協会（EAA）の発足

エコツーリズム産業の発達と人気に乘じ、不適切な行いをするツアーオペレーター²⁵⁾が出てきたことで 1991 年に EAA を発足し、（表 - 1）同年オーストラリア、ブリスベンのクイーンズランド大学で様々な立場の人達からなるエコツーリズム会議が実施された²⁶⁾。その会議で Janet Richardson は、どのようにエコツーリズムの関係を組み立てるかを提起した²⁷⁾。それは環境保護の実施というよりも、エコツーリズム産業の活発な促進を目的にしたためツアーオペレーターが急増した²⁸⁾。

2) NEAP 認証制度の検討開始

1993 年にクイーンズランド州北部のポートダグラスで NGO や保護団体、政府機関など学術的に幅広い分野の 300 人以上の代表が出席し、NEAP 認証制度の開発、支援について討議された²⁸⁾。エコツーリズムの用語は、メディアに取り上げられ始め、注目され理解されるようになった。

会議内容より、エコツーリズム協会はエコツーリズムの方針を定め発展、成長を目指すことにした。連邦政府は、シドニーを活動拠点としていた Manidis Roberts Consultants に NEAP 認証制度計画について調査させ、その後オーストラリアのエコツーリズム財政援助案を計画した²⁷⁾。援助策は、連邦政府より 6 万ドルを拠出し、EAA とオーストラリアツアーオペレーターネットワーク（ATON/VTOA）の連携、協力により観光事業認証計画を開発させることにし、それが NEAP 認証制度発足のスタートであった。

3) 政策の実施と連邦政府からの支援

1994 年に国家エコツーリズム計画としてオーストラリア国内外の観光、エコツーリズムの発展のための構造を組み立てた²⁹⁾。1995 年から毎年エコツーリズム会議が開かれるようになり、その年はノーザンテリトリーのアリススプリングスで開かれ³⁰⁾、徐々に NEAP 認証制度の発展が図られた。オーストラリア観光省では、生態学的に持続可能な観光開発計画が引き続き検討された。1994 年から 97 年の 4 年間に長期的な自然保護、管理を狙った政府政策の実施と、援助金約 1,000 万 Au\$（約 500 万 US\$）が使用されたことで国際的にもオーストラリアのエコツーリズムは注目された³¹⁾。

4) NEAP 認証制度の開始

1996 年は、エコツーリズム会議がオーストラリア南部のカンガ

表-1 オーストラリアエコツーリズム協会 (EAA) の変遷

年	出来事
1991	1) オーストラリアエコツーリズム協会 (EAA) の発足 →観光保護よりエコツーリズム産業の促進化
1993	2) NEAP認証制度の検討開始 →環境保護を重点に制度化検討、連邦政府からの援助で観光事業認証計画開発
1994	3) 政策の実施と連邦政府からの支援 →国家エコツーリズム計画を構築し 観光計画範囲を拡大し推進
1996	4) NEAP認証制度の開始 →制度を実行可能な形にするために基準内容の見直し実施
2000 2001	5) NEAP II とエコガイド計画の導入 → NEAP 認証制度改訂、第2期「NEAP II」に改名 Nature and Ecotourism Accreditation Program → 商品適性に新しいカテゴリー導入 → 新しい料金システム導入 → NEAPエコガイド認証計画の開発
2003	6) 審査条項の検討・開発 →第3期「NEAP III」エコ認証制度 EcoCertification Programに改名
2004	→2004年審査条項案の開発
2005	→2005年オンライン申請にて認証の促進化

ルー島で開かれ³⁰⁾、加盟する会員数は増加した³²⁾。この年 EAA が今まで進めてきたエコツーリズム商品に関する第 1 期 NEAP (National Ecotourism Accreditation Program) 認証制度を本格的に開始した³³⁾。最初の評価の種類は、エコツーリズムとアドバンスエコツーリズムの 2 種類であった。制度設立に向けた検討段階では、制度基準内容が粗末であり、管理運営費用も高く設定され、規模の小さい観光業者が参加するのは厳しかった³¹⁾。しかし政府の資金的な援助により、この運営は実行可能になり、制度は開始された³¹⁾。

5) NEAP II とエコガイド計画の導入

2000 年に NEAP の名前を National から Nature に変更し³⁴⁾、第 2 期 NEAP II (Nature and Ecotourism Accreditation Program) とした。NEAP II では、評価の種類に新しくネイチャーツーリズムを組み入れ³⁵⁾、料金システムも見直し、年会費を含む認証料金は以前より安くなった。販売促進に Web ページを設けた策も加え、制度が改正された³⁶⁾。更に、この制度改正ではガイドの質の向上を目指すためにガイド認証制度も導入された。オーストラリアエコツーリズム発展に関連した国際的な動きとしては、1999 年の国連環境会議 (UNEP)、2002 年の国際エコツーリズムの年 (IYE : International Year of Ecotourism) があった。クイーンズランド州政府からも 2 万 US\$ の資金援助を受け、自然保護地域の管理者育成、教育をすることが図れた³²⁾。そして 2002 年 EAA は、クイーンズランドの旧活動拠点をブリスベン繁華街、商業中心地区の大きな建物に移動し、活動内容も NEAP 認証制度の強化、拡大とエコガイド認証制度に注目した展開を推進した³⁷⁾。

2002 年に実施した EAA の調査では、133 社のうち 54% が NEAP 制度の将来への展望が時代と共に進化することを期待していることが分かった³⁸⁾。従来の NEAP 認証制度で指摘される点は、ツアーオペレーターが作成する申請書に様々な基準があり複雑であることで作成にも時間がかかり、その割に成果につながらない内容であった。この手続きの過程ですでに混乱しストレスが溜まり、完成するための意欲を妨げる存在になっていた³⁸⁾。NEAP II では見直され、NEAP I より分かりやすく改良された。しかし NEAP II でも申請と基準の運用は、業者の大小によって、必ずしも十分配慮されたわけではなかった。

6) 審査条項の検討・開発

2003 年 NEAP II は、第 3 期として見直され、NEAP III エコ認証制

出典: EAA (2003) Nature and Ecotourism Certification Program Second edition, Rik Thwaites (2007) The Australian EcoCertification Program (NEAP): Blazing a Trail for Ecotourism Certification, but Keeping on Track?, Chapter 22, pp.435-463.

図-1 申請から認証までの流れ

度 (EcoCertification Program) と改称された³⁹⁾。この改称は、2002 年 5 月ケベック州の世界エコツーリズム会議 (WES: World Ecotourism Summit) で話題にされた。この会議では、主に、Certification と Accreditation の用語の使用方法の問題が指摘された⁴⁰⁾。Ralf Buckley 氏によると、オーストラリアの NEAP は、Accreditation というより環境保護の活動に対しての Certification として考慮されたと考えられている⁴¹⁾。

内容も認証における審査委員に第 3 者審査委員を加入させ、2004 年に審査委員の審査条項プログラムの開発も行った³⁷⁾。2005 年には、パソコンを利用したオンラインでの申請書作成、申請認証できるシステムを設け NEAP 認証制度をより利用しやすくさせることで促進させた³⁸⁾。

2010 年の会議は、10 月クイーンズランドのサンシャインコーストで開催した⁴²⁾。会議には、エコツーリズム関係者 (経営者、政府、企業団体、保護団体など) が参加し、事例研究、業界の現状などを討論が行われ、また国際的な基調演説者の最新研究に触れる機会もあり今後のエコツーリズムの展開を世界的に模索する機会であった。現在でも、オーストラリアにおいてエコツーリズムを発展させる組織として EAA の存在が大きい。EAA は民間団体組織であるが、州、連邦政府の資金的な援助があつてここまで発展してきた。この発展により、オーストラリアは世界的にもエコツーリズム先進国といわれる所以である。EAA は、近年、温暖化対策、二酸化炭素削減等での環境保護等も進めている。NEAP 認証制度と向かう方向性は共通であるが、今後も、自然保護が優先であり、より促進していくことが重要となっている。

(4) NEAP 認証の手続き

1) 申請から認証までの流れ

表-2 認証の条件

エコツーリズム製品について	ネイチャー ツーリズム	エコツーリズ ム	アドバンス ツーリズム
直接自然体験することによって興味や関心を抱かせるような個性的なプログラムがある	○	○	○
自然体験する時、正しく理解できるような方法で自然の楽しさに繋がる方法がある	任意	必ずしも体験が中心の必要はない	体験が中心の要素である
環境に最も良い持続的な観光にやり方を示し、実践していること	○	○	○
積極的に自然地域の保全に貢献する		○	○
地元地域の貢献に献身的に継続し提供する		○	○
利用者に対し地域の文化を通し興味を持ってもらえるようにする		○	○
いつも利用者の期待を満たしている	○	○	○
エコツーリズム商品を現実的な予想に基づいた正確なマーケティングができています	○	○	○

出典：EAA(2003) Nature and Ecotourism Certification Program Second editionより作成

NEAP 認証制度は EAA によって管理され、協会内の NEAP 実行委員会で書類申請が行われ、EAA から独立した第三者機関 NEAP 管理集団で審査、評価を受け、最終的にオーストラリアエコツーリズム委員会で承認され、EAA に認証される。EAA から独立した第三者機関を設けることでツアーオペレーターとの利害関係の防止になり、更にその認証の信頼性にも繋がっている。

申請から認証までの流れは、図-1 に示した。認証を受けるためにツアーオペレーターは、EAA が独自に作成した書類をインターネット上から入手し、記入を行う必要がある。書類は(a)申請書と(b)自己評価書からなり、申込者の名前、住所など必要となる個人情報に加え、NEAP 認証制度で定める商品分類(宿泊施設、ツアー、アトラクション)とランク(ネイチャー、エコツーリズム、アドバンスエコツーリズム)を商品の基準に基づきすべて自己評価で判断し記入を行う。

次に(b)自己評価書類は150ページを超え、大きく8つの項目に分かれた質問事項に対し4段階評価で自己評価を行う。8つの項目に関しては、自然地域、インタープリテーション、継続的な環境保護への貢献、地域社会のための仕事、文化的構成要素、旅行者の満足、責任のあるマーケティングである。これらの項目には、それぞれ評価基準とボーナス基準⁴³⁾があり、基準を満たし、ボーナス基準を満たすと評価の高いランクの認証を受けることが可能となる。また必要に応じてコメントや説明を加えた写真、レポートを提出すると、ボーナス点に繋がる場合がある。

申請後、EAA 中の NEAP 実行委員会で審査が行われる。申請商品に関して提出した自己評価書類を基に8つの項目からなる質問事項から無作為に抽出し審査が行われる。申請書の内容、認証される商品数、提出された書類の量等によって変わることもあるが審査に要する期間は、約14日間としている。これらの審査をまとめ委員会に提出をする。NEAP 管理集団では、審査をもとに監査と評価を独自に行い、結果をオーストラリアエコツーリズム委員会に提出する。審査に応じてさらに情報提出が求められることが往々にある。

最終決定は、毎月開かれるオーストラリアエコツーリズム委員会での判断によって決められ、その中で評価基準を満たしていないものに関しては、申請が却下される。評価に総合的に合格すると認証を受けることが可能となる。認証期間は3年間である。そのため1年ごとに報告書の提出、年会費の納入が義務付けられている。そして3年目が終わる時には、経営者は再度申請を行うか退会するかを選択する。再度申請する場合は、改めて審査は行われる。

表-3 認証料金

(単位: Aus \$)

毎年の売上高	-\$250,000	\$250,001 -\$1,000,000	\$1,000,001 -\$5,000,000	\$5,000,001 -\$10,000,000	\$10,000,001+
登録料	\$90				
評価料金	\$295	\$355	\$460	\$555	\$760
年会費	\$335	\$530	\$770	\$930	\$1,040
EAA割引会員	\$135	\$175	\$240	\$400	\$795

出典：EAAのHPより作成(2010.9.21参照)

2) 認証条件

応募するにはネイチャーツーリズム、エコツーリズム、アドバンスツーリズムの申請分野がある。表-2 に認証対象条件の違いを示した。ネイチャーツーリズムは、自然地域における体験を大切とした持続可能な観光である。また、訪れた自然地域の環境に負荷を与える影響を最小限度にすることが求められる。

エコツーリズムは、自然地域における体験や文化的な理解、環境保護管理の正しい理解を助長させることを大切とした持続可能な観光である。また、自然地域の中で旅行者が楽しめるものを提供し、経営者が環境資源を有効に利用し地域の社会に役立ち環境保全に貢献することを求められる。アドバンスエコツーリズムは、NEAP 商品の中での最高ランクとなる。経営者は、オーストラリアの中で最も有力なエコツーリズム商品として提供し続け、誰に対しても最も良い業務を行い、環境資源を有効に利用する際に環境保全の貢献と地域社会の助けに役立つことが求められる。この2つの違いでアドバンスエコツーリズムは、インタープリテーションを最も重要な要素としていることと、突起した(特色のある)実践内容が示されていること、が違いになると示されている。

3) 認証対象商品

NEAP の認証を受ける商品には、宿泊施設、ツアー、アトラクションがある。宿泊施設には、ロッジ、リゾート、キャンプ・キャラバングラウンドなどが含まれる。ツアーには、例えばブッシュウォーキング、ドライビング、洞窟探検、シュノーケルなどがある。旅行者は1つのツアーだけでなく多くツアーへの参加など、複数の活動を組み合わせることができる。ツアーで宿泊施設を利用する場合でも、宿泊施設はツアーとは別に認証を受ける。アトラクションとは、野生生物公園、サンクチュアリ(禁猟区・鳥獣保護区など)、水族館、ビジターセンターなどが含まれる。アトラクションは自然環境と設備を組み合わせることが必須であり、旅行者に対して体験や学習の助けをしなければいけない。

表-4 認証商品数

	タスマニア	ノーザン テリトリー	南オーストラ リア	西オーストラ リア	ニューサウス ウェールズ	ビクト リア	クイーンズ ランド	オーストラ リア首都特別地 域	合計	構成率
ネイチャーツーリズム	1	0	3	2	4	4	2	0	16	17%
エコツーリズム	1	3	4	1	3	2	10	0	24	26%
アドバンスエコツーリズム	3	1	4	4	8	4	28	1	53	57%
宿泊施設設計	5	4	11	7	15	10	40	1	93	22%*
ネイチャーツーリズム	1	8	9	12	5	8	9	0	52	19%
エコツーリズム	4	9	9	13	10	14	28	0	87	31%
アドバンスエコツーリズム	4	10	16	11	12	17	71	0	141	50%
ツアー計	9	27	34	36	27	39	108	0	280	66%*
ネイチャーツーリズム	0	0	0	2	1	1	0	0	4	8%
エコツーリズム	1	2	2	4	0	3	6	0	18	36%
アドバンスエコツーリズム	1	1	3	1	4	5	12	1	28	56%
アトラクション計	2	3	5	7	5	9	18	1	50	12%*
ネイチャーツーリズム	2	8	12	16	10	13	11	0	72	17%
エコツーリズム	6	14	15	18	13	19	44	0	129	30%
アドバンスエコツーリズム	8	12	23	16	24	26	111	2	222	52%
合計	16	34	50	50	47	58	166	2	423	100%*
認証比率	4%	8%	12%	12%	11%	14%	39%	0%	100%	

* 宿泊施設設計、ツアー計、アトラクション計を合計すると100%となる。

出典：EAA, <<http://www.ecotourism.org.au/>> (2010年1月時点)より作成

図-2 認証がもたらす効果

4) 認証料金と認証商品数

認証を受けるには、登録料として\$90を支払い、その商品の総年間売上高に基づいた評価料金と年会費を支払う必要がある(表-3)。年会費は、その商品の出来高に応じた支払い形式にすることでツアーオペレーターの経済的な面で配慮しており、認証を受けるための取り組みがしやすい設定と考えられる。

認証商品数は、2010年1月時点で423個取得している(表-4)。その大半は最高ランクであるアドバンスエコツーリズムの適性を積極的に取得していることから、多くのツアーオペレーターは認証の付加価値が高いことを認識していると考えられる。また認証を受ける商品種類の6割をツアーが占めている。これは旅行業者も多く認証を取得しているためツアー企画が多いといえる。そして州別に認証数を見るとクイーンズランド州が最も商品が多くあることがいえる。これはクイーンズランド州には、世界遺産地域や国立公園が多いだけでなく都市から比較的にアクセスがしやすいことで集客効果が高いからだといえる。更にクイーンズランド州は、エコツーリズム州と銘打ってエコツーリズムが盛んで州政府の方針でも整備を積極的に進めていることやNEAP認証制度を行うEAAの事務所がクイーンズランド州にあることも影響すると考えられる。

(5) NEAP 認証制度がもたらす効果

NEAP認証制度のもたらす効果は、NEAP認証制度のマニュアル²³⁾に記載されている効果を、4つの立場ごとに整理して図-2に示した。4つの立場とは、①ツアーオペレーター、②旅行者、③保護地域管理者、④地元地域である。それぞれの立場ごとに期待・要求・役割があり、その効果は共通の観光資源となる自然環境から見出されたものである。

NEAP認証制度がもたらす効果をツアーオペレーターから整理したのが、図-2の左側である。まず、商品が認証されることにより、商品の品質が証明される。また、認証を受けるための取り組みから、運営計画や商品の企画開発が進み集客力の向上に繋がる効果が期待できる。新規参入者にとっても、商品の参考となり、業界全体での意識向上につながる。さらに、自然環境に配慮した取り組みは、自然保護管理者との連携につながる。連携の広がりには、産業を活性化させるだけでなく、自然環境に対しても配慮した商品が期待できる。保護地域管理者にとっても、NEAP認証を受けた商品が増えることにより自然環境に与える負荷が軽減する。地元地域にとっても、認証商品が増えることにより雇用機会の創出や関連グッズなどの開発が期待できる。

一方で、国際エコツーリズム協会の報告によれば、環境保護は宿泊施設の責任と認識している旅行者が多い。米国、オーストラリア旅行者の3分の2以上が、イギリスの旅行者の90%以上が、環境保護への取り組みに対して宿泊施設の責任を認識している⁴⁴⁾。NEAPのツアーオペレーターには宿泊施設の責任者も含まれてお

り、ツアーオペレーターの環境保護に対する取り組みは、重要である。旅行者にとっても、認証商品が増えることで旅行者の好み に合わせた選択肢の幅が広がる。

(6) NEAP 認証の効果の検証

NEAP認証を受けるために実施されるマニュアルは、大きく8つの項目⁴⁵⁾に分かれ、①自然地域重視、②インタープリテーション、③持続可能な環境、④保護への貢献、⑤地域社会のための仕事、⑥文化的構成要素、⑦旅行者の満足度、⑧責任あるマーケティング、で規格基準を満たしているかをチェックするものである。対象は、アドバンスエコツーリズム(最高ランクの認証を受けた商品)におけるツアー¹⁶⁾、宿泊施設¹⁷⁾、アトラクション¹⁸⁾で現地調査を実施した。現地調査結果から分かった項目を以下にまとめた。なお、調査者の主観的な意見もあるが参考のために記入した。

NEAP認証商品は、旅行者に対して高い信頼性を示すものである。理由は、NEAP認証制度の重要な8つの項目からの規格基準を満たすことで環境配慮への取り組み度合いを判断する材料となる。更にNEAP認証は、独立した第三者機関によって監査を受け、ツアーオペレーターとの利害関係が生まれないようにすることで、信頼性はより高い付加価値に繋がる。その結果としてその信頼性は、旅行者が選択する時に安心して参加でき、求める要求を満たしてくれ、値段だけでなく自然環境に配慮した認証ラベルが貼ってあることでエコツーリズムを期待する旅行者を引き付ける効果がある。しかし、NEAP認証の最高ランクの認証受けていながらも現地調査では大きく3つの問題点を感じた。

第一の問題点としては、NEAP認証制度についての現地宿泊施設スタッフの認識不足が考えられる。現地で、スタッフに直接インタビューをした結果、NEAP認証制度を知らないスタッフもいた。また、現地調査から、ゴミの分別処理が適切に行われていない事例が見られた。NEAP認証の取り組みは、経営者判断で行われるため、経営者らの上位者は、十分理解と認識を持っているが、末端のスタッフにまでは十分浸透していない事例があった。

第二の問題点としては、ツアー企画の書類上では適切に基準を満たしているが、実際は、多人数が一度に移動している問題があった。現地調査では、移動手段はバス1台に50名以上の旅行者と一緒に体験を行った。ツアーは旅行者約10名に対し、ガイドが1人付く形で5組の団体で実施し、書類上は最高ランクの認証にあたる基準を満たす形をとっている。しかし、ツアー内容はそれぞれの団体との時間を空けることなく、ほとんど1つの団体が一緒に移動する形であった。ツアーオペレーターにとっては、1台のバスを使い多くの旅行者を運ぶことでコストダウンに繋がり合理的でもあるが、NEAP認証制度は、本来エコツーリズムを推奨するものであるため、環境配慮へ取り組むためには、少人数制を選択すべきと考える。利用者10名ごとにガイドが1名付いても、ツアーが5組同時に集まれば50名になり、解説活動の画一化が進む。例えば、同じバスで移動する場合は、5組の団体それぞれが同じ時間で移動していく必要がある。このため、解説が画一化してしまう弊害がある。旅行者の興味や実際の自然の変化に対する臨機応変な解説活動ができなくなることが問題である。しかし、ツアーの現地解説において、旅行者10名に対しガイドが1人付くことは評価できる。ガイドの声を旅行者が十分に聞ける人数であった。

第三の問題点としては、NEAP認証制度の取得のための手間と時間が長いので、今後より時間の短縮を検討すべきである。現地のスタッフが指摘していたが習得するための認証の流れがシンプルになることでより早い認証を得ることが可能となる。ホームページを使った申請²⁴⁾などの改善が行われているが、まだ、制度の認証過程での手間と時間の負担があり、応募しにくいことが原因に繋がっているかもしれない。オーストラリアは、観光を国の主産業としており、今後も自然環境を重視したエコツーリズム産業の

育成が重要である。そこで、今後さらに認証をスムーズに与えることで環境に配慮するツアーオペレーターの増加に繋がるのではないかと考える。

4. まとめ

NEAP 認証制度の成立過程の特徴をまとめた。オーストラリアの観光事業は国の基幹産業である。NEAP 認証制度の仕組みは 1996 年から開始し、料金体系や制度基準の改善、新しいシステムの導入について現在に至るまで試行錯誤を繰り返し実施してきたことで、NEAP 認証制度の環境配慮への取り組み度合いを判断する材料となった。更に、制度が成立した背景として、国や州が戦略的にエコツーリズムを推進している。NEAP 認証制度の設立段階では、国や州の資金援助が有効に活用され、認証制度を開始することができた。現在では、年会費や認証料金などが一定額入るようになっており、より国や州から独立した資金源を持つようになった。NEAP 認証制度を設けることにより、観光事業の資源である自然環境保護に役立っているといえる。

次に、NEAP 認証制度の認証の特徴をまとめた。NEAP 認証は、独立した第三者機関によって監査を受け、ツアーオペレーターとの利害関係が生まれないようにすることで、より信頼性の高い価値観に繋がった。その結果としてその信頼性は、旅行者が選択する時に安心して参加でき、求める要求を満たしてくれ、値段だけでなく自然環境に配慮した認証があることでエコツーリズムを期待する旅行者を引き付ける効果が生まれた。NEAP 認証制度の信頼性は、制度の仕組み的にも高いことが分かった。

最後に、商品認証の実態をまとめた。現地調査からいくつかの問題点があった。特に、NEAP 認証制度の取り組みについての認識が末端のスタッフにまで伝わっていないことがあった。今後、認証商品を扱うスタッフへの教育についても検討が必要である。またツアーの場合、認証のための書類上では適切に基準を満たしているが、バスなどでの移動手段で、複数のツアーをまとめて運ぶような事例もあり、今後の検討課題の一つである。また、NEAP 認証制度の取得のための手間と時間が長いので、認証基準と手順の検討を進め、申請者の負担を削減する工夫を重ねるべきであろう。

NEAP 認証制度は、国や州、ツアーオペレーター、保護地域管理者、地元地域が連携した取り組みである。自然環境保護に配慮したこの認証制度を、今後も継続的に推進することがオーストラリアのエコツーリズム発展に繋がると考える。

本論文で得られた成果は、現地調査、インタビューによるものが大きい。現地でご協力頂いたスタッフの皆さんに感謝したい。

補注及び引用文献

- 1) 海津ゆりえ (2008) : 国立公園における新たな試み「エコツーリズム」: 森林科学 53, 27-31
- 2) 下村彰男 (2004) : エコツーリズム さあ、はじめよう! : 財団法人日本交通公社 平凡社, 185-186
- 3) Ralf C. Buckley (2001) : Ecotourism Accreditation in Australia : Tourism ecolabelling ,certification and promotion of sustainable management, Xavier Font & Ralf Buckley Chapter11, 165-173
- 4) Guy Chester and Alice Crabtree (2002) : Australia, The Nature and Ecotourism Accreditation Program: Ecotourism & Certification Setting Standards in Practice, Martha Honey, Island Press, Chapter5, 161-185
- 5) J. Pissaverdis (2001) : The Pursuit of Excellence, Benchmarking, Accreditation, Best Practice and Auditing : The Encyclopedia of Ecotourism, David B. Weaver, CAB International, Chapter37, 579-591
- 6) John Jenkins and Stephen Wearing (2003) : Ecotourism and Protected Areas in Australia : Ecotourism Policy and Planning, David A. Fennell & Ross K. Dowling, CAB International, Chapter11, 205-233
- 7) Rik Thwaites (2007) : The Australian EcoCertification Program (NEAP), Blazing a Trail for Ecotourism Certification, but Keeping on Track? : Quality Assurance and Certification in Ecotourism, Rosemary Black & Alice Crabtree, CAB International, Chapter22, 435-463
- 8) 小林寛子 (2002) : エコツーリズムってなに? フレーザー島からはじまった挑戦 : 河出書房新社, 251pp
- 9) スー・ピートン (2002) : エコツーリズム教本 先進国オーストラリアに学ぶ実践ガイド : 訳小林英俊, 平凡社, 317pp
- 10) 小林英俊 (2006) : 自然遺産管理とツーリズムが共存する仕組み, 国立民族学博物館調査報告 61, 167-197
- 11) Commonwealth of Australia.
- 12) ニューサウス・ウェールズ、ビクトリア、クイーンズランド、南オーストラリア、西オーストラリア、タスマニア。
- 13) 北部準州 ノーザンテリトリー、首都領地域。
- 14) シドニー日本商工会議所 (2009) オーストラリア概要, p. 7
- 15) 日本貿易振興機構 (ジェトロ) オーストラリア <http://www.jetro.go.jp/world/oceania/au/stat_01/>, 2010.8.26 参照
- 16) 宿泊施設は、オライリーゲストハウスに宿泊
- 17) ツアーは、ツアーゴールドコーストが主催する土ボタルツアーに参加
- 18) アトラクションは、カランビン・ワイルドライフ・サンクチュアリー (動物保護区) に訪問した。
- 19) NEAP: Nature and Ecotourism Accreditation Program の略
- 20) EAA: Ecotourism Australia Association の略
- 21) 前掲 8), p. 53
- 22) Australian Tour Operators Network (ATON), Victorian Tour Operators Association (VTOA) と引用先によっては異なるが、お互いに対応するものでここではオーストラリアツアーオペレーターネットワーク (ATON /VTOA) と記載する。
- 23) Ecotourism Australia(2003): Nature and Ecotourism Certification Program, : Second edition, p.3
- 24) Ecotourism Australia HP から<<http://www.ecotourism.org.au/index.asp>>, 2010.8.18 参照
- 25) ツアーオペレーターとは、観光業に携わる多くの関係者を示しているが、日本語では適切な訳がないため本論では、そのままの形を使用する。
- 26) Wet Tropics Management Authority (2004) : A Handbook for Tour Guides Daintree River to Cape Tribulation, p.4
- 27) K.A.Matysek & L.K.Kriwoken (2003) : The Nature State: Nature-Based Tourism and Ecotourism Accreditation in Tasmania, Australia: Journal of Quality Assurance in Hospitality & Tourism, Vol.4(1/2) ,p.8
- 28) 前掲 4), p. 163
- 29) Tsung-Wei Lai (2002) : Ecotourism in Australia: Linking Green Productivity to Ecotourism, Experiences in the Asia-Pacific Region, Chapter32, p.270
- 30) Dr Ross K. Dowling, Selected List of Conferences, <http://ideology.net.au/file_download/1/Dowling+Conferences.pdf>, 2010.9.19 参照
- 31) 前掲 4), p. 164
- 32) 前掲 27), p. 54
- 33) 前掲 7), p. 435
- 34) 前掲 7), p. 436
- 35) 前掲 7), p. 438
- 36) 前掲 7), p. 448
- 37) 前掲 27), p. 55
- 38) 前掲 7), p. 446
- 39) NEAP 認証制度は、2003 年の改正で EcoCertification Program に名称を変更した。このため、2010 年現在で NEAP の名称を使用していないが、本論文では EcoCertification Program も NEAP 認証制度と呼ぶことにした。
- 40) Ralf Buckley(2002) : Research Note Tourism Eco certification in the International Year of Ecotourism, Journal of Ecotourism, Vol. 1, p.197
- 41) 前掲 40), p. 197. 認定 (Accreditation) は、競合し合う団体によって認定が異なり、旅行者には判断が難しいと考えられている。また認証 (Certification) は、公の機関が正当な手続きによって運用されることで信頼性が高く、より実効性も高いものを示し、エコ認証 (Eco certification) は、環境保護の活動に対して認証するものである。そのため用語の使用法は、認定より認証を使用することが多い。
- 42) Global Eco Asia Pacific Conference 2010 について<<http://www.globaleco.com.au/>>, 2010.9.15 参照
- 43) ボーナス基準とは、基準にある質問事項とは別にある、より高度な要求に対して達成することで与えられるポイントである。例としてガイド 1 人あたり 5 人未満の利用者といった人の制限や、自然エネルギー (電気自動車、太陽光) の完備、トイレのコンポスト化の設備の強化などがあげられている。
- 44) The International Ecotourism Society (2005) : Fact Sheet, Global Ecotourism, p.2
- 45) 前掲 23), 17-120